

平成28年度 都市農村共生・対流総合対策交付金(山村活性化支援対策)事業実施評価書

1. 事業名

山村活性化支援交付金

2. 事業実施主体名

下呂市

3. 事業概要

・事業目的

今回地域資源として位置づける「あぶらえ(エゴマ)」は、小坂町地域において古くから郷土食の材料として使われてきた。各家庭で先祖代々の在来種を必要な分だけ栽培(種子は自家採取)し受け継がれている。あぶらえ栽培は獣被害が少ないことや遊休農地で栽培可能である事と、あぶらえの機能性(油の $\alpha$ -リノレン酸、搾油残渣のフラボノイド類等の有効成分)がテレビ放映等により話題となり、需要が見込まれてきたことから、地域であぶらえ生産組合を設立し、栽培技術の確立とともに在来品種の優位性の検証、特長を生かした商品開発を行うことで付加価値の向上を実現する。

加工商品開発については、油は新しい酸化防止可能な容器を用い、消費者への購買意欲をうながす。また地域特産品と組み合わせたドレッシングを開発する。

下呂市の高地トレーニングエリアに訪れる長距離系アスリートを焦点にしてエゴマ油の運動機能、身体機能に与える効果を検証し、高地トレーニングを実施しているアスリートへの新たな商品開発研究を行う。

所得や雇用の増大といった地域経済の活性化に加え、住民向け講習会等により、あぶらえの機能性を活かした「健康」をキーワードとした地域づくりをおこなう。

・事業費・交付額(単位:円)

事業費

7,950,138円

交付額

7,950,138円

・事業実施期間

平成28年6月16日 ~ 平成29年3月15日

4. 実績評価

(1) 目標の達成状況等の総合的評価

計画に沿って取り組めた。定期的に省力化(機械化)の講習会や講演会を開催し指導をおこなったことで組合員の栽培知識、技術向上となり、あぶらえのブランド化に向けた栽培規格などの品質向上につながられた。また一般住民にも周知できたことからあぶらえの有効成分に興味をもたれる方もみえ小坂地域が大半だった生産者は市内全域に広がりつつあり、今後は生産組合員の増加が見込まれる。

アスリート向けのサプリやドレッシングなどの商品開発が地域に浸透すれば高地トレーニングや郷土色をいかした商品開発による地域全体の活性化が期待できる。

(2) 取組状況

概ね本交付金の内容に添う形で実施しすることができた。連携企業との連絡調整がうまくいかなかったところがあったが、期間内に事業に取り組むことができた。

(3) 事業実績

生産組合員数は目標15名に対し、実績32名となりました。組合を離れる人もありましたが、それ以上に新規加入された方があり関心の高さが伺われました。生産面積は目標80aに対し実績220a(2.2ha)で栽培がおこなわれました。今後も生産面積は増える見込みです。あぶらえ加工商品の売上については商品制作、納品時期が遅れ、販売までには至りませんでした。次年度より販売を開始いたします。

(4) 実施体制

当初計画のとおり実施体制やメンバーで事業に取り組めた。関連団体で異動等が発生していることから今後はこれまで以上に協力体制を強化していきたい。

(5) その他事項

地元商工会で、他県視察団にあぶらえ栽培、収穫視察を組み込んでいただくなど、県外にむけてのPRもできた。

5. 事業実施結果

・目標達成状況

	指標	目標値	実績値	達成率
・	あぶらえの生産面積	80a	220a	275%
・	飛騨小坂あぶらえ生産組合 組合員数	15人	32名	213%
・	あぶらえ加工品の販売額(千円)	300千円	0円	0%

(計測方法)

生産面積は生産組合により作付面積、収量調査を実施して把握。

あぶらえの加工商品の販売実績は納品が3月中旬であったことからH28年度の実績としてはありません。

・所見

H28度は天候に恵まれ、昨年までの不作から一転し豊作の年となった。自家消費以外で地元消費、販路の少なさが浮き彫りとなり、今後の加工手段、販路拡大にむけた取組みの必要性がよくわかった。あぶらえ栽培は住民にも定着してきているので、家庭での消費方法の多様化、生産組合と商工関係者と連携による地域全体での取組みが今後の課題となる。